

寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 議事録（要旨）

会員 13 名中 12 名参加

【日 時】令和 6 年 2 月 22 日(木)午前 10 時 00 分ごろ～午前 11 時 30 分ごろ

【場 所】寝屋川市立産業振興センター 3 階 第 1 セミナー室

【配布資料】・第 17 回寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 次第

・第 17 回寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 席次表

・寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議 資料

【出席者】

第 1 号会員 公募市民 前田 寛 氏

第 2 号会員 寝屋川市商業団体連合会 岩根 浩仁 氏

寝屋川市商業団体連合会 米田 秀樹 氏

寝屋川市工業会 尾崎 教仁 氏

寝屋川市農業委員会 金谷 伸太郎 氏

第 3 号会員 北大阪商工会議所寝屋川支所 榎並 佑亮 氏

第 4 号会員 大阪電気通信大学 伊藤 義道 氏

摂南大学 尾山 廣 氏

大阪公立大学工業高等専門学校 中田 裕一 氏

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 富加見 隆 氏

第 5 号会員 寝屋川市消費者協会 森田 順子 氏

会 長 市まちづくり推進部部長兼産業振興室長 山口 美加

市 事 務 局 川原課長、近成課長、津川係長、元村係長

【欠席者】

第 2 号会員 寝屋川市農政推進協議会 玉川 好裕 氏

【傍聴者】

1 名

【要 旨】

1 会議の公開・非公開

- ・会議の公開・非公開について諮り、原則どおり公開とすることを決定した。

2 会員様から御提供いただいた案件

(1) 関西ネットワークシステム第 77 回定例会の開催

【説明・趣旨】

- ・尾山会員から「関西ネットワークシステム第 77 回定例会の開催」について、説明が行われた。
- ・地域の自立のために重要な産学官民の有機的なネットワークを形成し、広範な交流を図り、社会に貢献する関西の科学技術と産業の振興を図るとともに、地域経済の活性化に寄与することを目的とした「関西ネットワークシステム」という異分野コミュニティがある。
- ・「産学官民連携はコミュニケーションからはじまる」をテーマに、年 4 回の定例会等を開催しており、今年度 4 回目、通算 77 回目の定例会（日時：令和 6 年 3 月 9 日（土）午後 1 時～午後 7 時）を摂南大学枚方キャンパスにて開催する。
- ・摂南大学教授による産学官連携をテーマとした「基調講演」や日々の活動について発表する「プレゼン大会」、また「交流会」を予定しており、いろいろな異分野の方と交流を深めることができる。関心のある方は是非、参加いただきたい。

(2) 特産品について

【説明・趣旨】

- ・前田会員から「特産品」について案件の提供があり、事務局から本市の主な特産品等について説明の上、意見交換が行われた。
- ・寝屋川市の特産品の一例として、「鉢かづきちゃん物語（さつまいもの饅頭）」「大葉の里（大葉を使ったゼリー）」「桜ふわわ（桜あんとしポンジ生地のお菓子）」等の郷土銘菓がある。
- ・カタギ食品株式会社の「いり胡麻」や有限会社一力総本店の「郷土銘菓寝屋川（小倉あん、白あん入りの焼き菓子）」等について、「天下の台所・大阪」で長く愛され続けている、お土産や贈り物にもおすすめの加工食品として、大阪府の「大阪産（もん）名品」の認証を受けている。
- ・寝屋川市の寝屋地区において、さつまいもの栽培が盛んに行われており、

秋には、北河内農業協同組合寝屋観光農園部による「いも掘り（観光農園事業）」が行われている。

- ・寝屋川青年会議所では、「カタギ食品株式会社のごま製品」、「摂南大学が開発した福神漬け」を使用した寝屋川市の名物となり得るレシピを募集し、ねやがわパーク事業「桜と光の舞い 2024」内にて「名物レシピ開発グランプリ」を開催の上、来場者による試食、投票により寝屋川市の名物レシピを決定する。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 特産品やふるさと納税の返礼品で工業製品はあるのか。

➡（ 回 答 ） ふるさと納税の返礼品として、市内事業者から提供いただいている「ポータブル電源」や「ジェットクリーナー」等が登録されている。

▶質問 2

（ 質 問 ） 資料に掲載のあるスイーツは、ふるさと納税の返礼品として登録されているのか。

➡（ 回 答 ） 「鉢かづきちゃん物語」「大葉の里」「桜ふわわ」等について、寝屋川市の郷土銘菓として、ふるさと納税の返礼品に登録されている。

▶意見 1

- ・特産品については、「お土産屋さんで販売しているもの」「寝屋川市でつくっているもの」「寝屋川市から広く発信しているもの」というイメージを持っていた。門真市における「門真レンコン」のように、寝屋川市の特産品と言えばこれといったものをつくってはどうか。

▶意見 2

- ・コロナ禍において、アクセサリなど自らの作品をつくっている作家が増えている。自らの作品を発表・出品できる場としてチャレンジショップを設けることで、販売方法やPR方法等を勉強することができ、かつそこから何か特産品ができることもあるのではないかと考えている。

▶意見 3

- ・「鉢かづきちゃん物語」については、国民体育大会の開催に合わせて、平成 8 年に開発されたものと記憶している。「鉢かづきちゃん物語」を始め、「桜ふわわ」や「桜もちいず（桜あんとクリームチーズの生菓子）」においても共通して言えることだが、企画・開発したあとの販路の開拓等において、どのように導線を引くか考えられておらず、今後どのように盛り立てていくか団体と行政が一体となって考えていく必要がある。

▶意見 4

- ・ねやがわパーク事業など市のイベントの開催に合わせて、販売しているようだが、普段どこの店舗で購入できるかなど P R すれば良い。

▶意見 5

- ・開発された当初は、市内の多くの店舗で購入できたが、今は取扱している店舗が限られている。商品の「企画・開発」の支援とは別に「販路開拓」など販売に特化した支援が必要ではないか。

▶意見 6

- ・特産品を企画・開発するだけでは、根付いていかない。また、特産品の開発についても開発費用やブランディング等の面において課題がある。商工会議所に在籍するブランドデザインの専門家、また補助金等を活用することで特産品の開発に向けた取組を進めていくことは可能だが、事業者、行政、支援機関が一体となって取り組まなければ、特産品を開発することも、そして定着していくことも難しい。

▶意見 7

- ・イベント等での不定期による販売ではなく、買いたいと思うときにいつでも購入できる、消費者の日常に入り込んでいく、そのような販路にすれば定着するのではないか。

▶意見 8

- ・これからの産業振興の観点から、例えば「地産地消に着目した新製品の開発」や「万博の開催に合わせた外国人向けの商品開発」など共通認識の持てるシンボリックなテーマを定めて、新たな商品開発に力を注いでいく方

が良いのではないか。

▶意見 9

- ・大学を活用した取組として、民間会社による飲料物のPRとして、年2回程度、大学の敷地内で実施されている。飲料が無料配布されており、ほとんどの学生が同じ飲料を持っているので、製品PRとして効果がある。大阪市内や京阪沿線の学生が多く、このようなマーケティング手法も効果的であるとする。また、定期的の実施されることも必要だと思う。

▶意見 10

- ・新しい特産品を考えていくのであれば、大きな力が必要になるので、別の組織で検討する必要があるのではないか。

▶意見 11

- ・自身で農地を借りて野菜の栽培を始める人がいるが、育てた農作物を販売して安定した収入を得るまでには販路開拓等において課題も多く、第三者のサポートが必要であると感じている。課題を解決し農業で生計を立てることができるようになれば、そこから特産品も生まれてくるのではないか。

▶意見 12

- ・農地については、耕作放棄地等を活用した農地マッチング事業を実施している。農業で生計を立てることは難しいが、農地マッチングを活用することが効果的ではないか。

3 令和5年度主な事業の報告

(1) 寝屋川わくわく商品券事業

【説明・趣旨】

- ・寝屋川わくわく商品券事業について、事業の概要、利用可能店舗及び販売方法等の事業報告を行った。

(2) ねやがわパーク事業

【説明・趣旨】

- ・令和5年10月に開催した「ねやがわパーク事業（月見とランタンの夕べ2023）」の事業報告を行うとともに、令和6年3月に開催する「ねやがわパーク事業（桜と光の舞い2024）」について、事業内容を説明した。

(3) 創業・商店街等出店応援事業

【説明・趣旨】

- ・創業・商店街等出店応援事業について、補助金の対象経費、補助限度額等の補助内容の説明を行うとともに、令和5年度（2月15日時点）及び令和4年度の実績として、「申請・交付件数」や「開業した主な業種・店舗」について、事業報告を行った。

(4) 農地のマッチング事業

【説明・趣旨】

- ・農地のマッチング事業におけるマッチング成立件数や成立案件の概要等について、事業報告を行った。

(5) 貸農園整備事業補助

【説明・趣旨】

- ・貸農園整備に係る補助事業の補助件数等の実績について、事業報告を行うとともに、令和6年度において開設予定の農園の概要について、事業説明を行った。

4 令和6年度主な事業（実施予定）

(1) ユニーク経営表彰制度

【説明・趣旨】

- ・市内事業者が行う働き方改革の推進、福利厚生の実施等に関するユニークな取組を表彰し、PRすることで、受賞事業者の知名度アップ、従業員のモチベーションアップ及び市民の地域への愛着醸成を図るとともに、ユニークな取組の横展開を図り、市内事業者の働き方改革の促進等につなげるため、「ユニーク経営表彰制度」を令和6年度に創設する予定であることを説明した。

(2) 事業承継実態調査の実施

【説明・趣旨】

- ・市内事業者の事業承継について今後の支援策の検討を行うため、「事業承継実態調査」を令和6年度に実施予定であることを説明した。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 市内事業者が調査対象であるとのことだが、農業従事者も含むのか。

➡（ 回 答 ） 主に商業、工業に従事している者が対象になってくものと想定している。

5 その他

(1) 産業振興に関する連絡調整会議の今後の在り方について

【説明・趣旨】

- ・ 本連絡調整会議の会員については、商業、工業、農業の関係団体を始め、様々な団体等から代表して会議に出席してきている。会議における会員の意見等を踏まえ、今後の産業振興に向けた取組にいかしていくためにも、会議の開催回数を増やしてはどうか。

【質問・意見】

▶意見 1

- ・ テーマを決めて実施するのであれば、回数を増やすことも考えられるが、産業振興という非常に大きな枠での集まりであるため、毎回テーマが変わるようであれば、回数を増やしても、その効果は限定的ではないか。

▶意見 2

- ・ 議論を深めるため、年に 2 回の連絡調整会議とは別に、その会議で取り上げられたテーマに応じて、分野ごとに会員を選定し、専門的に討議を行う会議を実施してはどうか。

▶意見 3

- ・ 本連絡調整会議の設置の趣旨は、意見・情報を交換するための場であり、あるテーマを深掘して議論していくことを想定していないのではないか。

(2) 寝屋川市駅周辺における産業振興について

【説明・趣旨】

- ・ 枚方市駅周辺においては、駅のコンコースのリニューアルを始め、多くの商業施設などが立地し、また、商業、オフィス、住宅等の機能を備えた複合施設の整備が進められている。さらに、近隣には大学が立地し、若者向

けの店舗では、学生などでにぎわいを見せている。寝屋川市駅周辺において、地域外から人を呼び込めるような起点となる場所をつくっていくことが、今後の重要な課題ではないか。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 寝屋川市駅周辺その他、市内の状況として、グリーンシティやイトーキの跡地の活用について、何か決まっていることはあるか。

➡（ 回 答 ） 民間事業者による開発が進められているものではあるが、イトーキ跡地には物流センターができると聞いている。

▶意見 1

- ・ 枚方市駅周辺の再開発については、行政主導によるものではなく、鉄道会社等の民間投資により進められている。

(3) 事業における評価指標について

【説明・趣旨】

- ・ 事業実施においては、目標達成のため、具体的な方法やスキームを決定していく必要があるが、どのような目的、目標を掲げて実施するかなどあらかじめ評価指標を明確に設定しておくことで、事業成果もイメージしやすくなるように感じた。

【質問・意見】

▶質問 1

（ 質 問 ） 産業振興においては、どのような「K P I（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）」を設定されているのか。

➡（ 回 答 ） 具体的な数値目標を設定しているわけではないが、主に「消費喚起効果（いかに新たな消費を生み出すことができたか）」「雇用の創出（いかに新たな就労の機会をつくり出すことができたか）」が主な評価指標になってくものと考えている。

6 今後のスケジュール

- ・ 今後、次期会員の選任に向け、各団体へ推薦依頼等の相談、調整をさせていただく予定である。